

令和7年2月6日開催の市議会と校長会との意見交換会で出された諸課題の進捗について

Ⅰ 意見交換会から出た主な課題事項

(1) 自然学校の日数見直し(小学校)

①課題点

教員不足が影響し、4泊5日の自然学校が負担となっている。

②現状の対応や要望

校長会として、2泊3日にできないか県へ声を上げている。

【対応】

(1) 校長会からの要望

令和6年8月に開催された兵庫県教育委員会事務局と兵庫県小学校長会との教育懇談会において「環境体験事業及び自然学校の現状からの要望」として、次の8項目を要望しています。

①自然学校の期間の短縮(2泊3日)を含めた弾力的な実施について

②バス代高騰に係る予算の増額について

③人的支援の拡充とそれに係る予算の増額について

④救急員、補助員の確実な確保について

⑤予算執行の弾力化について

⑥自然学校の外部委託について

⑦実施可能な施設の確保・拡充について

⑧学級数での予算の弾力化について

(2) 本市の対応

本市としても、兵庫県教育委員会連合会と兵庫県教育委員会との意見交換を行うに当たり、「環境学習、自然学校等小学校体験活動事業及びトライやる・ウィークの定額交付金の増額等支援の充実」として、次の5項目を要望しています。

①燃料費高騰に伴うバスの費用について

②自然学校実施期間における校内体制について

③指導補助員の確保について

④定額交付金の増額について

⑤柔軟な実施期間の設定について

(2) 校外学習のバス代の学校間格差（小学校）

①課題点

大規模校と、中規模・小規模校の生徒数の違いで、一人当たりのバス代金が異なっている。代金も影響し、バスの確保が困難な状況。

②現状の対応や要望

小規模校同士で合同企画することも試みたが、学校間の連携が負担となるのみで、うまくいかなかった。

【対応】

校外学習に係るバス代は、6年生での京都への校外学習で比較すると

大規模校である

宝塚第一小学校、宝塚小学校、長尾小学校では、2,625円から3,085円です。

中規模校である

西山小学校、中山台小学校、末広小学校では、3,317円から3,657円です。

小規模校である

逆瀬台小学校、高司小学校では、2,514円から2,927円です。

2校以上の小規模の学校が合同で校外学習を実施する場合、予め、日程、行先を決めておき、別行動で活動すれば、同じバスを使用することも出来ますが、それぞれの学校で学校行事や教職員の出張等の調整を早い時期から検討しておく必要があります。また、複数校が関わるため、事前に打ち合わせの回数が増え、学校間同士の調整に時間を要します。

他にも、各学校が離れた場所にあると、回送ルートの距離や時間が増え、追加料金が発生することがあり、効率的なルートが取れず、結果としてコストが上がることも考えられます。

(3) 教員の多忙化（小学校）

①課題点

放課後における地域からの要望や保護者からの相談など、勉強を教える以外に多くの仕事が重なっており、教員にゆとりがない状況。教員が足りないことが原因。

②現状の対応や要望

働き改革はそれぞれの学校で行っているが、限界がある。

【対応】

既に学校行事・会議の精選・簡略化をはじめ、学校への電話は午後6時（小学校は午後5時）から午前8時までは留守電に設定しており、電話対応の負担を軽減しています。このほか、ノー残業デー、ノー会議デー、ノー部活デーの徹底と、中学校の部活動の地域移行に取り組んでいます。それぞれの学校は主体的に取り組む学校行事や会議の精選や、ノー残業デー等の取組については、一定の成果はあるものの、根本的な業務改善に繋がった訳ではありません。

今後は、積み残し課題や継続対応として、カリキュラムオーバーロードへの対応、勤怠管理シス

テムの導入による勤務実態の見える化とその対応、中学校部活動の地域移行など、様々な課題への対応について、教育委員会が方針を決定し、各学校へ周知するとともに、保護者や地域にも理解を求めていかなければならないと考えています。

そのため、現在、策定している「宝塚市教職員の働き方改革基本方針」を早期に取りまとめ、着実に取り組んでいきます。

(4) カリキュラムの過密（小学校）

①課題点

過去と違い、食育、環境教育、福祉教育や健康教育など、もともとの教科書以外のカリキュラムが多岐にわたっており、教員の多忙化に影響している。

②現状の対応や要望

対応できないと理由が必要となるため、マネジメントしながら1年を終える状況。

【対応】

小学校における教育課程の編成については、学校教育法施行規則第50条において、「小学校の教育課程は、国語、社会、算数、理科、生活、音楽、図画工作、家庭、体育及び外国語の教科、特別の教科である道徳、外国語活動、総合的な学習の時間並びに特別活動によって編成するものとする」とされています。

総合的な学習の時間は、学習指導要領において、学年ごとの指導内容について明示はされてはいませんが、目標を実現するにふさわしい探究課題について、「目標を実現するにふさわしい探究課題については、学校の実態に応じて、例えば、国際理解、情報、環境、福祉・健康などの現代的な諸課題に対応する横断的・総合的な課題、地域の人々の暮らし、伝統と文化など地域や学校の特色に応じた課題、児童の興味・関心に基づく課題などを踏まえて設定すること。」とあり、教科書以外の学習内容についても、学校は、実態に応じて設定する必要があると考えられています。

食育や健康教育は全学年を通して実施していますが、栄養教諭や養護教諭が中心となり、様々な授業を実施しています。環境教育は小学校3年生で、福祉教育は小学校4年生で重点的に取り組んでいます。

今後は、校長会からも意見を聞きながら、必要に応じて実態を把握し、適正に負担なく運用できるように取り組んでいきます。

(5) サポートルーム（小学校）

①課題点

不登校児童の別室指導やサポートルームの設置により、指導員がいる時にのみ登校できる生徒が増えたが、教員不足が影響し、指導員がいないときに登校してきた場合に対応できない懸念がある。

②現状の対応や要望

学習に対する加配だけではなく、不登校加配なども行ってほしい。

【対応】

令和6年5月から小学校20校に週2日、1日当たり4時間のAssistスタッフを配置しました。

宝塚第一小学校と高司小学校の2校は、小学校での先行モデル実施として令和5年4月から中学校と同様に別室登校指導員（週3日、1日7時間）を配置しており、西谷小学校は西谷中学校の別室登校指導員が必要に応じて対応していることから、全小学校23校で対応しています。

また、現在、以下のように加配措置を講じています。

①不登校加配

安倉小学校、安倉中学校

②児童生徒支援加配

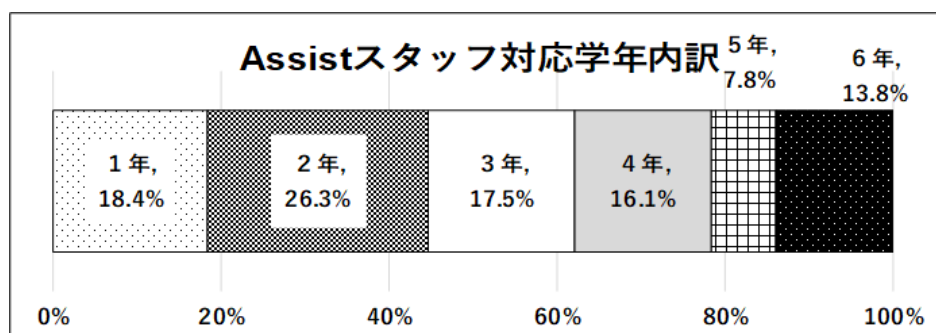
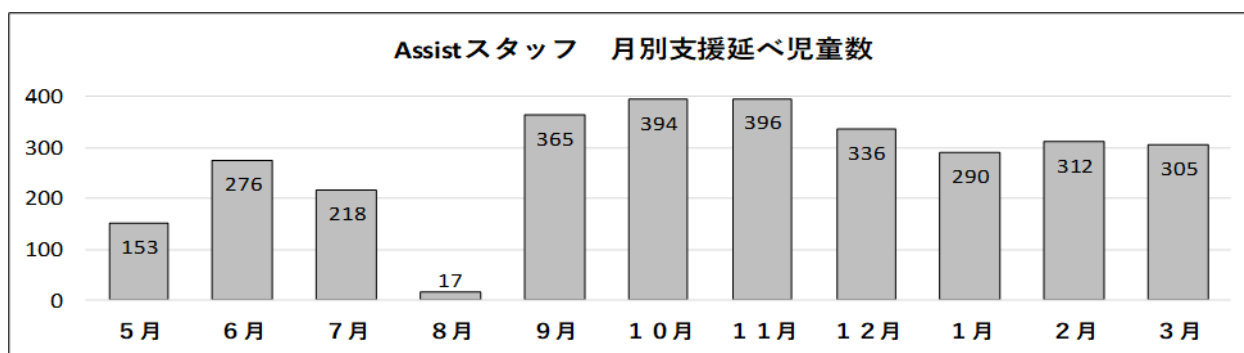
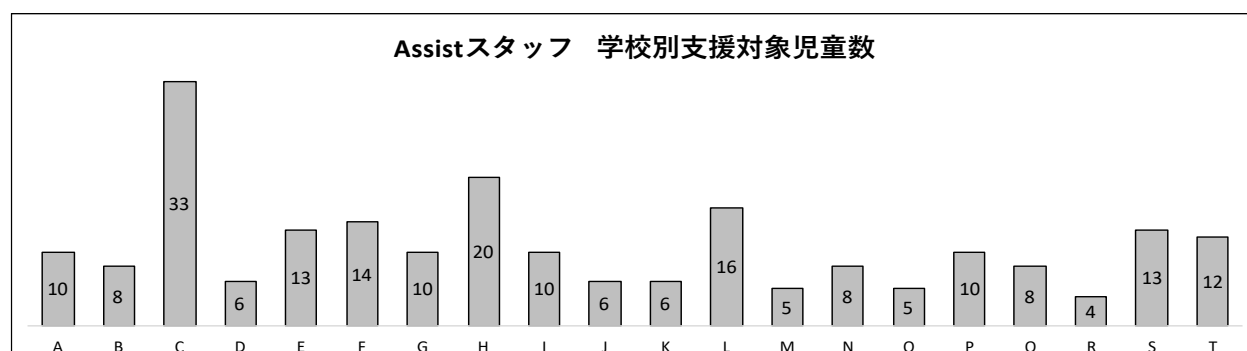
良元小学校、小浜小学校、末成小学校、安倉小学校、中山台小学校、高司小学校

宝塚第一中学校、宝塚中学校、長尾中学校、高司中学校、南ひばりが丘中学校、安倉中学校

③児童生徒指導加配

良元小学校、小浜小学校、全中学校

【参考資料】



(6) 教員のブラックなイメージの払拭（小学校）

①課題点

教職員はブラックな職場であるという固定概念が強い。

②現状の対応や要望

若い教員から出る「苦労の先にあるやりがいや、子供たちを可愛く思う気持ち」などの意見を見せていきたい。

【対応】

上記(3)の「教員の多忙化」の取組と合わせて、ブラックなイメージの払拭に向けて取り組んでいきます。

(7) 西谷地区の特認校制度（小学校）

①課題点

5家庭の募集に対して、選ばれたのは1家庭と少ない状況。

②現状の対応や要望

令和7年度募集は、1年生とその兄弟の募集としていたが、次年度以降は学年を外して募集する。

【対応】

小規模化の著しい西谷小学校と西谷中学校では、地域、保護者、関係団体、学校等の代表者で構成する「西谷地区学校づくり検討委員会」を設置して、西谷小中学校の適正化に向けた検討を進めています。その中で、すぐに着手できる手法として特認校制度を検討し、令和7年度から取組を始めました。

今年度は、取組初年度でもあることから、対象の学年を小学校では新小学1年生とその兄弟に限定したことから、小学校1年生の児童2人が入学し、5月から4年生の児童1人が転入しました。

令和8年度以降は、対象に制限を設けることなく、全学年を対象とし、広く募集する予定です。西谷小中学校の魅力を発信し、より多くの児童生徒が西谷地区の特別な環境の中で学びを深めることができるよう取り組んでいきます。